

# ワークショップ1 【アジアの政治運動と サブカルチャー実践】

日本メディア学会 2022年春季大会

15:00~17:00

問題提起者：

日本大学国際関係学部助教・陳怡禎（チン イテイ）

社会運動における情動  
(Emotion/Affection)

- James Jasper(2011) :  
社会運動において、「衝動  
(urge)」「気分 (moods)」「  
「感情的忠誠心 (Affective  
loyalties)」「道徳的感情  
(moral emotions)」など4つ  
の「情動」が存在している。  
社会運動の場においては、それ  
らの情動は常に生成し、相互作  
用し、社会運動の発展や結果に  
影響している

社会運動における情動  
(Emotion/Affection)

- Manuel Castells (2012)  
政治学に使われている  
「情動知能理論 (Affective Intelligence Theory)」 (Marcus, Neuman and MacKuen 2000) を引用し、怒り、不安、情熱 は人々の政治活動に影響する



# 問題提起

- 社会運動での「集まる」・「繋がる」だけでなく、**情動を通しての連結**も注目すべき
- 社会運動における情動の生成や交換、共有：
  - ①不安、憤怒、情熱といった「抗争対象や目的」に対する情動
  - ②自らの愛好に基づき、細分化されたコミュニティを構築し、愛好に対する「情動」  
⇒ **「ファン文化（趣味に対する愛好に基づく情動）が社会運動における情動に転換する」という点に注目**



図① : ETTODAY 2016/3/17 <https://www.ettoday.net/news/20160317/664779.htm>

図② : TVBS 2014/04/10 <https://news.tvbs.com.tw/life/527547>



# 本日 発表の流れ

- 台湾ひまわり運動とは
- ひまわり運動における「アイドルファン文化」「腐女子二次創作文化」
- なぜ社会運動の担い手たちは、愛情や快楽といった情動を用いて社会運動という場に参入しているか

# ひまわり運動とは

台湾ひまわり運動：

- 2014年3月18日～4月10日まで約3週間にも及んだ社会運動
- 経済・政治面における中国への傾倒が起因⇒政治面における「台湾」対「中国」の対抗図式



ひまわり運動参加者の  
同質性 & 異質性



同質性：

- ①政治・経済面での中国依存への不満
- ②参加者の多数派は、二〇～三〇代の大学以上の学歴を持つ若者



異質性：

社会運動参加者の異質性、日常性や流動性

異なる関心を持つ運動参加者  
の間では、情動の生成、交換、  
共有が行われた

# ひまわり運動参加者の日常性や流動性

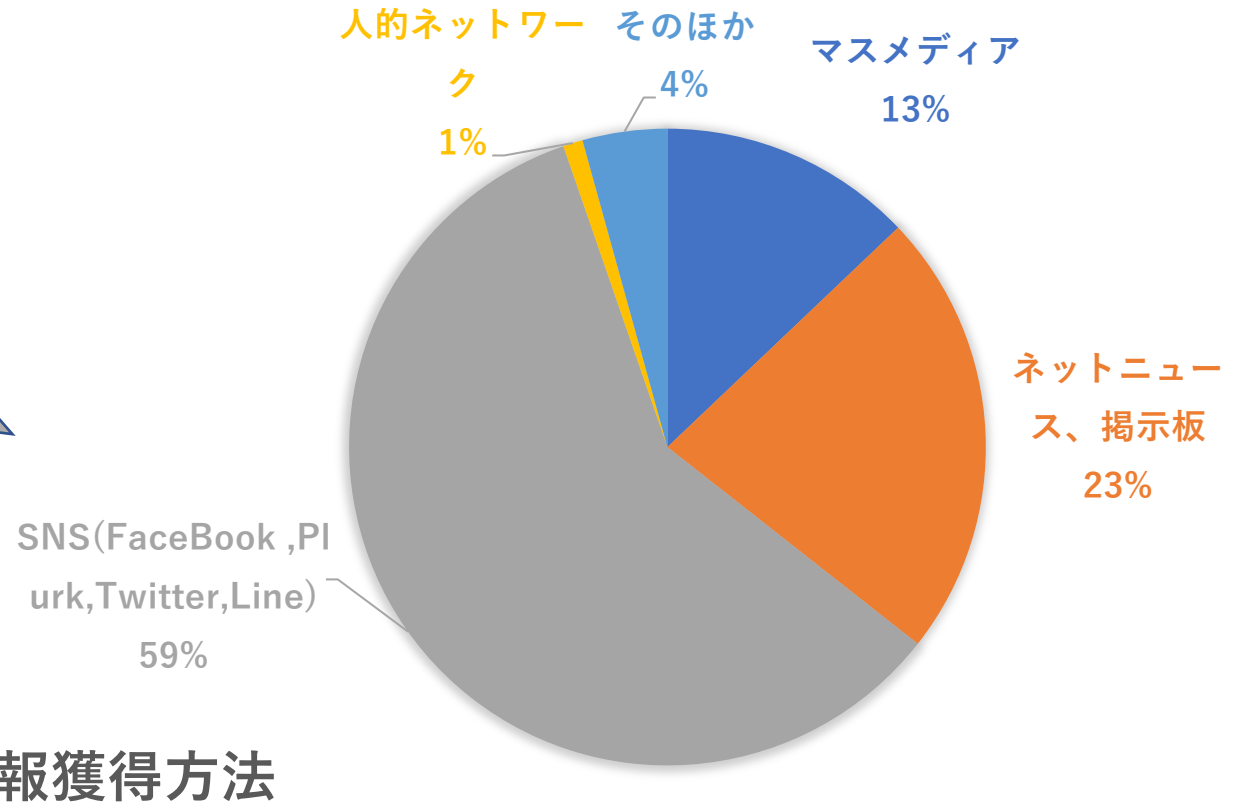
- 実空間・ネット空間での参加が実現
  - ◆実空間：主な占拠現場：台湾の国会議場の周辺、さらに台湾各地の県庁前、公園などの場所でも抗議現場になった
  - ◆ネット空間：インターネット掲示板、合同現場記録、24時間のネット中継などで繋ぐ参加者
- 生活(日常)空間と運動（出来事）空間の境界線が曖昧化



# ひまわり運動における情報獲得方法

- データ：台湾の台北大学社会学部による占拠現場でのアンケート調査（陳婉琪・黄樹仁 2015）

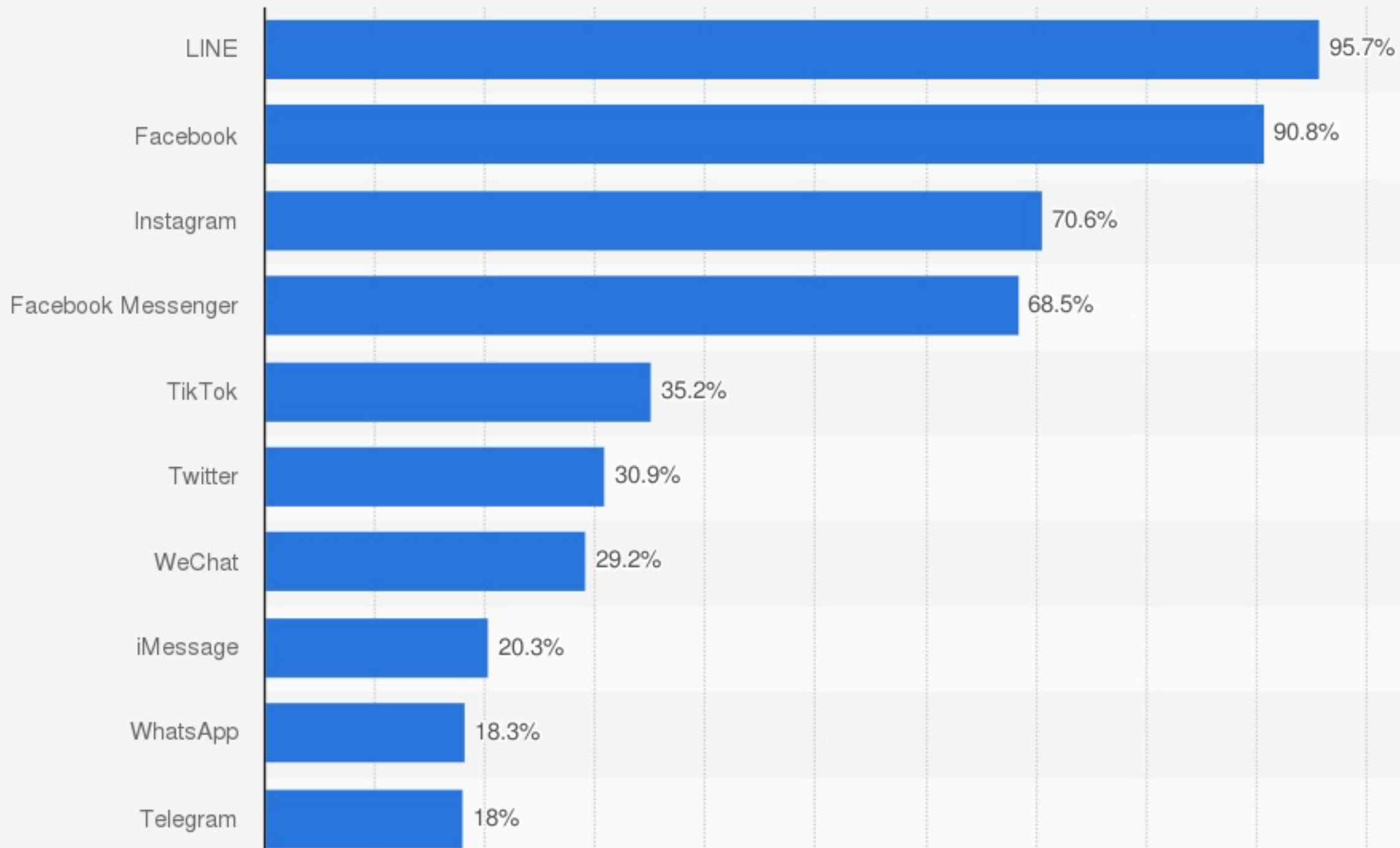
主な情報獲得方法を「SNS」を選択した人の実空間への運動参加率が高い



# 台湾におけるネット利用

2014年ひまわり運動前後のデータより

- 固定インターネット普及率：67.6%/モバイルインターネット普及率：81%  
⇒強化された「私的ネット利用」
- インターネット利用目的：
  - ①SNS利用（64.31%）
  - ②通話・通信アプリ（51.45%）
  - ③ウェブサイト閲覧(44.47%)



# 台湾におけるネット利用

- SNS利用（人と繋ぐこと）が主な目的  
⇒複数のネットワークの形成・交錯：**ネットワークのネットワーク**（a network of networks カステル2012）

台湾のネット利用環境は、  
ひまわり運動の  
フローの空間と場所の空間の融合と拡大  
を後押し

# 複数のネットワークの交錯

- 複数のネットワークが相互作用する
  - ⇒参加者は自分の“趣味”に基づくネットワーク（複数可能）での実践を社会運動のネットワークでの実践に重なり合わせることができる
  - ⇒“趣味”に基づくネットワークで生成された情動も、社会運動のネットワークで共有されることも可能



事例研究：

ひまわり運動における二つの趣味文化

- 「アイドルファン文化」
- 「腐女子二次創作文化」
- 特徴：
  - ①日本のサブカルチャーから影響を受けている
  - ②インターネット上で拡散

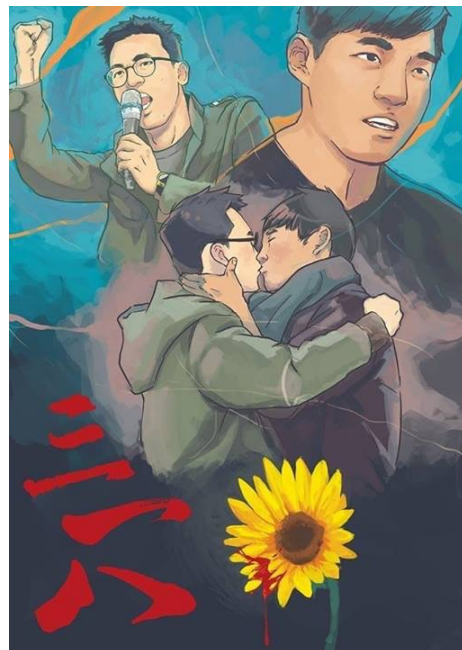
# ひまわり運動における 「アイドルファン」文化

リーダーが着用している衣装がネット上に特定され、飛ぶように売れる

ファンがリーダーにぬいぐるみや食べ物をプレゼントする

リーダーの日常生活エピソードに興味を示しているなど





出典：FaceBook「捍衛為廷飛帆戀情開花結果粉絲團」

- Facebook ファンページの開設  
「捍衛為廷飛帆戀情開花結果粉絲團」（運動期間には10000人以上のフォロワー）
- 写真の合成、小説、漫画の二次創作など
- ネット上だけでなく、運動現場でも集結し語り合っていたり、「萌える相手」本人に伝えたりしている

ひまわり運動における  
「腐女子二次創作」文化

# なぜ二つのファン文化が生成したか

## • 運動参加者の日常的参加

⇒ ネットを通して24時間中継（ニュースサイト、YouTube、Ustream、ニコニコ動画）

⇒ 「社会運動」と「日常生活」の境界線が曖昧化

⇒ 運動リーダーに対する想像空間の拡大

なぜ参加者たちは、「愛好」に基づく情動を用いて社会運動に参入したか？

● **参加型ファン文化の活用**：

ひまわり運動に参加した人、注目した人、関心をもった人たちが、アイドルファン文化、腐女子二次創作文化に参入したり、討論したり、批判したりすることで、このサブカルチャー実践が拡大し、文化現象になっていった

⇒ **「会話」と「情動」の生成・交換・共有**

● **趣味共同体（ファンコミュニティ）の可視化**：

ファンコミュニティが趣味実践を通して発話する権力を手にした

⇒ これまで見えにくいコミュニティが浮上し、相互に関連付ける

⇒ 抵抗の中の「抵抗」



# 参考文献

- 伊藤昌亮,2012,『デモのメディア論 社会運動社会のゆくえ』筑摩書房.
- 伊藤守,2017,『情動の社会学 —ポストメディア時代における“ミクロ知覚”の探求』青土社
- James Jasper,2011, "Emotions and Social Movements: Twenty Years of Theory and Research" in Annual Review of Sociology, 37(1):p.285-303.
- Manuel Castells,2015, "Networks of Outrage and Hope: Social Movements in the InternetAge" Polity.
- Zeynep Tufekci, Twitter and Tear Gas: The Power and Fragility of Networked Protest, Yale University Press,2017.(=毛利嘉孝監修、中林敦子訳,2017,『ツイッターと催涙ガス ネット時代の政治運動における強さと脆さ』Pヴァイン)
- 鄭宇君・陳百齡,2016「探索線上公眾即時參與網絡化社運—以臺灣 318 運動為例」傳播研究與實踐,6卷1期(2016 / 01 / 01), P117 – 150.
- 陳婉琪・張恒豪・黃樹仁,2016「網絡社會運動時代的來臨? 太陽花運動參與者的人際連帶與社群媒體因素初探」人文及社會科學集刊,28(4),p467-501.